

第3回上山市振興審議会 会議録

1 日 時 令和5年9月26日（火）午後1時30分～2時30分

2 場 所 上山市役所 大会議室

3 出欠席委員等氏名

（1）出席委員

1号委員 尾形 みち子、川崎 朋巳

2号委員 木村 佳代子

3号委員 原田 広幸

4号委員 五十嵐 伸一郎、堀川 博美、堺 美奈子、安藤 常浩
猪狩 良佳、菅野 高志、小松 亮太、永田 孝子
山川 和寿、山川 庸久

5号委員 下平 裕之、鈴木 明美、柳井 雅也

（2）欠席委員

4号委員 榎本 令子、小川 久義

5号委員 遠藤 寛明

（3）上山市振興計画策定委員出席者

副委員長 横戸 隆 教育長

関係課（局）長 20名（代理：市民生活課舟越係長、商工課佐藤係長）

（4）事務局 市政戦略課 市政・SDGs戦略係

富士課長、猪倉副主幹兼係長、渡邊主査、渡辺主任、土屋主任、古瀬主事

4 会議に付した事件

（1）協議

ア 総論・基本構想（案）について

イ その他

5 会 議 録

進 行 ただ今より第3回上山市振興審議会を開催いたします。

進 行 本日ですが3名の委員の欠席のご連絡を頂いております。4号委員の榎本令子委員、小川久義委員、5号委員の遠藤寛明委員より欠席の連絡をいただいております。なお、この会議の内容は前回と同様に、市のホームページ、マスコミ等へ公開をさせていただきますのでよろしくお願い致します。
次に、柳井会長よりごあいさつをお願いいたします。

柳井会長 夏が終わりかけてきたという事で、みなさん健康の方はいかがでしょうか。総合計画策定は体力勝負になりますので、体調に気を付けて下さい。

総合計画ですが、言葉で言うのですが、温故知新という言葉と不易流行という言葉があります。温故知新は、皆さんご存じの通り、古のもの、つ

まりこの地域にあるものを、一回自分で考えてみて、自分で新しいことを知っていくということです。地域づくりで言えば、地域にあるものを重視していく考え方であります。それに対して、松尾芭蕉が言った言葉で、不易流行という言葉があります。これは、時代の流れに沿って本質を変えずに、変えられるところを変えていくという考え方です。実はこの、温故知新と不易流行は同じ様に見えるのですが、前者の温故知新は、過去とか歴史というものにきちんと焦点を合わせて考えていく、それに対して不易流行の方は、現代に焦点を合わせて既にあるものを変えていくという事になります。

総合計画では、どちらかを選んでどちらかの立場からという事ではなく、この2つを皆さんの心の中でスクリーニングをして頂いて、この場で発表していくという事になります。

午前中は、庁内の方と意見交換をさせていただきまして、総合計画は今の問題だけを議論しているのではなく、10年後、あるいは次の世代の議論をしているわけであります。我々の仕事はタスクではなくワークです。タスクは与えられた仕事をこなすルーチンワークが基本になりますが、ワークは意思を持って自分の目的を実現していく、そして、不可能なことを可能にしていくのが仕事といたしますので、ぜひそう言ったことを考えながら深い議論をしていただければと思います。私からは以上になります。

進　　行　　ありがとうございます。ここからは、上山市振興審議会条例第6条第2項の規定により、柳井会長より議事進行をお願いします。

柳井会長　それでは、お手元の議事次第をご覧ください。次第の3、会議録署名委員の指名を行います。

上山市振興審議会条例施行規則第9条第2項の規定により、会長において、木村佳代子委員、堀川博美委員を指名いたします。木村委員、堀川委員よろしく願いいたします。

次に、次第の4、協議に入らせていただきます。はじめに、会議の進め方について改めてお願い申し上げます。審議会の会議録を作成することが必要ですので、委員の皆様には、マイクを使って発言して下さいますようお願いいたします。

それでは、協議に入ります。協議の（1）総論・基本構想（案）について、事務局の説明を求めます。

（富士課長が資料1に基づき説明　将来都市像部分）

柳井会長 ただ今、事務局から将来都市像について説明がありましたが、『つながりつなげる いろどりのまち かみのやま』という言葉を選んだということで説明を頂きました。恐らくこれが決まってくると、流れが決まってきますので大事なところとなります。ご意見を頂戴したいと思います。如何でしょうか。なければ一人ずつ伺いますがよろしいでしょうか。

尾形委員の方から順番にお願いします。

尾形委員 『つながりつなげる いろどりのまち かみのやま』という将来都市像という事で、これは『いろどりのまち』というのが気になるんですけども、『つながりつなげるは』分かるんですが、ちょっと読みづらいという印象を持つので、その点にどういうコンセプトがあるのか伺いたいと思います。

柳井会長 質問等については、後でまとめて回答でよろしいでしょうか。

異議等なし

柳井会長 では、続けてお願いします。

川崎委員 尾形委員と一緒に、上山を修飾する言葉がこの『いろどり』という形になると思うのですが、未来会議の中で出た言葉であると前回の資料にもありましたが、未来会議の中で、『いろどり』という言葉がどういう思いを持って発言されたのか、どういう考えがあったのか伺いたいと思います。

木村委員 『つながりつなげる いろどりのまち』という事で、すごく明るくて上山の賑やかなイメージがするので、良いと思います。昨日テレビで、鶴瓶の家族に乾杯が放送されていて、それに上山が取り上げられていて、その中でも人の良さが表れていて、そういったものも前面に出せて行けたら良いと思いますので、良いと思います。

原田委員 率直な感想ですが、『いろどりのまち』というのは抽象的すぎると思います。ストレートに『つながりつなげる げんきなまち かみのやま』で良いのではないかと思います。

安藤委員 『つながりつなげる』ちょっと引っ掛かる感じがします。『つなげる』というのは、間を取り持つということで、積極的に考えますというニュアンスでは良いと思います。

『いろどり』という言葉ですが、おそらく果物の色とか、色々あると思います。そこから少し解釈すると、いろんな人々が多様性を認め合って、それが色んな可能性を持つという考え方もできるかなと思いますので、ちょっとそこは考えなければいけないところかなとは思いますが。

五十嵐委員 他の委員の方とだいたい同じですが、『いろどり』という表現が抽象的すぎるので、どう解釈するかというところが、読んだ人によって左右されてしまう。これが将来都市像かと考えると、抽象的過ぎて微妙なところで

す。

猪狩委員 『つながりつなげる』何を意味しているのかなというところで、少し頭に入ってきた感じがします。『いろどりのまち』、多分、上山市は地域資源を例えると緑を意味していると思うんですけども、抽象的な感じで分かりにくく、ちょっと頭に入ってきたのかな、という感覚を持ちます。

菅野委員 『いろどり』の解釈がそれぞれの人で違うという意見もありましたが、『いろどり』と言って、悪い方に考える方はいらっしゃらないのかなと思うので、良いと思います。

小松委員 『いろどりのまち』というところが抽象的だと思いますので、説明するなにかは必要だと思います。『つながりつなげる』というのは、つなげる何かとか、つなぐ思いとか、『何を』『何か』というのが無いとちょっと入ってきたかと思ったところです。

堺委員 皆様と同じで、まちづくりの目標として、将来都市像として一言で表すとなると、こちらの言葉は想像が出来ない。読めば、このことを言っているんだ、という言葉を選んだ方がよろしいと感じました。

永田委員 県外からいらした方から、自然が豊かで食べ物が美味しい、そして人が温かいと言って頂きます。そういう色んな要素が入っているのが『いろどりのまち』なのかな、と解釈しました。それを活かして、多くの方とつながり、心豊かな生活できれば魅力あふれる上山になると思います。

『つながりつなげる いろどりのまち かみのやま』は、良いんじゃないかな、と率直に思いました。

堀川委員 説明文の、『日常生活において』からを読めば、『つながりの輪を広げていくこと』という表現があるのですが、『つながりひろげる げんきなまち かみのやま』の方が良いのではないかと思います。

質問ですが、『ヒト・モノ・コト』の『コト』とは何ですか。

山川(和)委員 下の文言の方で、『当たり前にある実は豊かな地域資源』というのが、皆さんの解釈ですと、やはりフルーツだったり、森だったりということで、一人ひとり感じるものが違うので、皆さんの話を聞いていると、農業とかフルーツとかあるんですけども、そういう事だけにもっていくのかなと感じてしまったところです。商業関係とか、そっち方面には何もないのかな、という印象があるので、もうちょっと違う言い方の方が良いのかなと思います。

山川(庸)委員 『つながりつなげる』というのは、上山市は非常に歴史のある町で、歴史が繋がってきているわけだけども、『いろどりのまち』という事で、上山市にある自然の恵みというところですかね。

個人的に思ったのですが、上山市の一番の魅力って何かな、と考えましたら、今年は全国的に災害が多かったですよね、集中豪雨ですとか。上山

市は比較的災害がものすごく少ないんです。ですから、全国的に災害の無い上山と訴えると、災害のあるところからは嫌味に聞こえるかもしれませんが、大きな売りではないかと思います。

下平委員 市民の皆様から上山市の8年後の姿をイメージしにくいという意見もでていきますので、市民の方がこれを見た時に、『上山市はこういうのを目指しているんだな』というイメージを持ってもらえるような文言を採用した方が良いと思います。『いろどり』のところを、どう解釈するか、文言をどのようにしたら良いかというところでしょうか。

鈴木委員 人のつながりの輪を広げていきたいという思いと、何か楽しい事を発信できる市になって、魅力のある市にしたいという思いを入れていただいたんだな、というのを感じます。『つながりつなげる』は、ちょっと言いにくいというのはありますけども、今後どうしていきたい、という思いは詰まった表現だなと、感じました。

柳井会長 ありがとうございます。それでは、出た質問等に対して事務局から回答をお願いします。

事務局 市民ワークショップで出された『いろどり』の意味ですが、一つとしては、『上山の地域資源って何だろう。』と考えた時に様々ありすぎて、中々一言では表せない、第一義的には市民の皆様の思いとしてあります。市民アンケートの結果としましても、『あなたが住んでいる地域の魅力を高めるために考えられる地域資源は何ですか。』という質問に対して、こちらは、振興計画の管理のために毎年聞いておりますけども、3つ回答出来る内容となっております。温泉が4割、果物が3割近く、その後はお城や静かな環境など、様々かなり分散されているのが実態でございます。例えば、天童市ですと『将棋の駒』というようにすぐに思い浮かべられるものがありますけども、そういった特徴的な1つに選べないというところも、ある意味それが上山の特徴であり、様々ありますよ、というところが特徴であるというところから、市民のワークショップの中では、こういったものを表す表現として、『いろどり』というキーワードが出されてものと考えております。ですので、その表現を活かして、様々な地域資源ということで『いろどりのまち』としていると解釈して頂ければと思います。

『コト』についてご質問がありましたが、お祭りや伝統文化などモノやヒトで表せないものを表しています。『ヒト』も『モノ』も地域資源でありますし、祭りや伝統文化も上山市の地域資源と言えますので、そういったところを表すために、地域資源を一つの『モノ』だと表さず、そのような表現をさせてもらっています。

受け取る側の考え方で変わるのではないかと、いうのに対してですが、多分、皆さん『上山といえど何でしょう。』という質問に対して、考え方

を様々お持ちで、そこは受け止め方の違いであるのかなと思いますので、そこは市民会議の方々のご意見を尊重させて頂いて、この『いろどりのまち』という、様々受け取る側で違っても、アリなのだろうということで、こういった表現にさせていただいたところでございます。

『つながりつなげる』が言いにくい、言い回しの難しいというご指摘を頂いておりますけども、こういった地域資源があるだけでは、中々まちとして発展出来ないで、それをしっかりつなげていく。人と人が次世代に繋げる、という意味合いもあるということで、様々な意味合いが『つながりつなげる』にもあります。こちら表現的に抽象的だという意見もありますが、それぞれの方々の受け止め方次第でも、こういったものを自分としてつなげていきたいか、つながりを持ちたいのか、市民それぞれの方のお考えがあってもよろしいかと思いますので、あえてそのような表現にさせていただいたところでございます。

柳井会長 どうもありがとうございました。事務局から説明がありましたが、如何でしょうか。大丈夫でしょうか。尾形委員、よろしいでしょうか。

尾形委員 『つながりつなげる いろどりのまち かみのやま』という将来都市像は、すぐにここで決定する事になるのでしょうか。

いろどりという、葉っぱですとか、温泉地とかをイメージするのですが、そういったことも含めて今日ここで決めることになるのでしょうか。

事務局 将来都市像が決まらなと、次につながる将来指標が決められないですし、全体的に影響してくるところになりますので、まずはこの将来都市像をしっかり決めた上で次のステップに進んでいきたいと考えています。

第7次振興計画では、逆に最後に将来都市像を決めてしまったものですから、全体のイメージとのつながりが分かりにくくなった。その反省点を活かし、まずは将来都市像を決めて頂いて、次の指標などを決めていきたいと考えております。

柳井会長 私から申し上げますが、だいたいこういうキャッチコピーになりますと、大学生とかそうなんですけど、『さあ飛びたつぞ』とか『希望に向けて』というように、簡単に言うと、何をするのかというオブジェクションが無いんですよ。日本語の良いところでもあり、悪いところでもあるんですけど、オブジェクションにあたる『何を』省く事によって、皆さんが共有できる世界観があります。総合計画の場合、色んな方の色んな考え方があり、中々向かっていけないところがありますので、全体に対する目的語を省略するという手法も考え方の1つとしてあると思います。

私もこちらに来た時に説明を受けたのですが、上山市は何でもありますという話があったのですが、都会的なすごいものがあるのではなくて、普段我々が人間として生活している中にあるもので、ハイクオリティといいま

すでしょうか、食べ物だと一番わかりやすいですけども。あと、水も美味しいし、景観も良かったり。でも、そういったものがみんなバラバラでつながっていないんですよ、と言われていたんですね。そういうことを意識して、つながる、そして、つながってないものは、つなげると。そういう風な話をさせていただいておりました。

そして、いろどりについてはですね、さきほど『はっぱ』という意見もありましたけども、多様性というものを表現し、言葉がですね、カラフルな、つまり、色んな夢を持って語れるような表現ということで、消去法で考えた時にこれが一番残ってくるのかなと思います。ひらがなで読みづらいという意見もありますが、10回くらい音読すれば違和感はなくなってくるかと思います。ですので、はずれではないですよ。

シナジーは、文化の力であったり、人間力であったり、産業の力であったり、アウトプットというの指定していないので、これからどんどん出てくると思います。そういった意味でですね、ぎゅっと共通点をまとめていく言葉として、もしよろしければ、認めて頂ければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。皆さんの方でも色々ご不満があったかと思いますが、これは私から、事務局の方をお願いしたいのですが、将来都市像の説明文が足りていないですね。委員の方の意見や市民の意見を十分反映しながら、精査しながら進めていただきたいと思います。そのような形でよろしいでしょうか。

異議等無し。

柳井会長 どうもありがとうございます。では、そのようにさせていただきたいと思います。

(富士課長が資料1に基づき説明 将来指標部分)

柳井会長 将来都市像にも関わってくるんですが、何もしなければこの数値になる可能性が高いだろうという、事務局側の問題意識になります。それを、つながりつなげていったり、いろどりとシナジー効果を出していくと、もうちょっと上げられるんじゃないか、同じ人口でも活力が出てきますし、バラバラに暮らすのではなく、一緒につながっていくですとか、ここに暮らすことに喜びを得るですとか、全体が関わり合ってくるところであります。では、ご意見有りましたら頂戴したいと思います。

下平委員 将来都市像と将来指標はセットで考える訳ですけども、『いろどりのま

ち』は多様な地域資源ということで、ここに係る指標が1つ必要になるのではないかと考えます。市民アンケートを今取っているということですが、例えば『地域資源の認知度』ですよね。市民の皆さんに地域資源を認識して頂けるような指標があってもよいのかなと思いますので、ご検討いただければと思います。

柳井会長 先生が仰っているのは、基本計画や実施計画の KPI とかにそういうのを反映させて欲しいというところでしょうか。

下平委員 市民アンケートで把握できる指標というのでしょうか、いろどりのところですが、『いろどりのまち』というところを表すような指標があればよいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 この中に、いろどりのまちを表すような指標はないのかと検討もしましたけれども、先ほども申し上げましたが、市民アンケートの結果からも地域資源として掲げるものがやはり、バラバラになっているという状況もありまして、これらを中々端的に表す指標というものが中々無いというのが、市民アンケートの結果としても無いというのが現状です。将来都市像の『つながりつなげる』部分に関わりがある、「協創」に関わる数値を採用させて頂いておりますけども、もし下平先生の方で何か案があれば、ご提案頂ければありがたいと思いますが、事務局側としては中々無いというのが実態というところです。

下平委員 上山市内にある、温泉とかいわゆる地域の宝物的なものを、あなたはどのくらい知っていますかなどの選択肢設けるような形でしょうか。

柳井会長 違う説明になるかもしれませんが、お城とか果物とか温泉とかが、無いんじゃないかとあるんですね。問題なのは、『つながりつなげる』に解くためのヒントがあって、お城と温泉を組み合わせるとか、温泉と果物組み合わせるとか、組み合わせることによって出てくる価値があります。上山の一つひとつは小さい宝物が、つながることによって、1足す1が3になるような力が出てくるんですね。そこに KPI を設定出来るでしょうし、つながった価値を見て下さいというやり方もあります。つながる力というのはみていくのも、それが『いろどり』というのを評価するのにつながるのではないのでしょうか。

下平委員 『いろどりのまち』というところで、市民の皆様で自分たちのまちをつくるんだ、というそういった指標の設定を難しいと思いますがご検討いただければと思います。

柳井会長 恐らく、社会福祉と産業政策をつなげたりですとか、今度の計画の特徴は、そういう横ぐしを刺していくような、組み合わせを考えていくような実施計画とか考え方とか、そういう形になっていくと思います。将来都市像が全部ひらがななんです、解くのはすごく難しいということですね。

どうもありがとうございます。他にいかがでしょうか。

原田委員 将来指標の『積極的に参加したい率が毎年度、前年度を上回る』とありますが、これは年代別もとっているのですか。年代別にとっていたら、ぜひ教えて頂きたいと思います。例えば20～40代の働き盛りの人が、この数値よりも上回っているのであれば、私はそれはそれで、上山市に対して将来像というのは、かなり高い可能性があるのかなと思います。ですので、年代別の数値があるのであれば、ぜひ教えて頂きたいと思います。

事務局 資料の手持ちがないですが、年代別に集計をして、クロス集計をしていますので、後ほど回答します。

安藤委員 2点ございます。1つは、『まちづくり活動に積極的に参加したい』とありますが、経年的に把握をしているようですので、質問は変えられないと思いますが、同じフレーズでも『積極的に』という言葉はどう解釈するかで非常に変わってくると思います。『まずは、率先してやって下さる方になりますか』というニュアンスになりますと、私は遠慮します。例えば、誘われたら参加しますか、というのを含むような、積極的に参加していない場合でも、誘われたら参加しても良いな、と思う人が増えたくれたらよろしいのかなと思いますので、その点は、今後の問題として1つ考えてもらっても良いのかなと思います。

それからもう1つ、指標というところで、『いろどり』というのを今後どう評価していくのかに関しては、色んな、それぞれの市民にとって良いものがどれくらいあるのかという事で、単純に割合で表現するのではなくて、例えば増えていくような確認の仕方をもって、経年的に評価できるようなやり方を検討頂ければ、面白いのではないかと思います。

柳井会長 今、2つ質問が出ましたが、いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。アンケートの取り方一つで結果が変わるのは、重々承知しておりまして、これが例えば、上山の市民性もあるかもしれませんが、『積極的に』と言われるとちょっと低くなってしまうと、皆さんと一緒に参加しても良いですか、という聞き方だと、多くなるというのは、我々も分かりますけども、まず基準として示した以上、アンケートの取り方を変えてしまうのは、数字が良い方になる取り方になってしましまして、そこは考えなければいけないところだと思います。

基準として示した以上は、このアンケートの取り方を続けないと、判断材料にならないのではないかと、という懸念事項があります。

下平先生からもありました、地域資源の捉え方については、我々もやはりどういう取り方をすれば、それが捉えられようになるのかというのは、市民意識調査に1項目増やすというのはしていかなければならないと思うのですけども、今ある現状の基準値を指標としなければなり

ませんので、今後、将来指標とは違うやり方になると思いますけども、市民の意識がどう変わっていくのか捉えるためのものとしては押さえていきたいと考えています。

柳井会長 多分、納得いきましたでしょうか。大丈夫ですか。

安藤委員 ある意味過去にとらわれないという事もありますので、未来に向けた指標ということも、積極的なものの尺度というんですかね、作っていければ良い思います。

柳井会長 非常に難しくてですね、この説明を正確ではないと思いますが、『積極的』という言葉は、人によってバイアスがかかりますよね。それぞれの統計の平均値をとっていくとだいたいこの変なのかというのに落ち着くので、難しいと言えは難しいですね。比較してどのくらいというのも、大事なのかなと個人的には思っております。

それから、地域資源という言葉ですが、僕たちの世界では地域価値という言葉もあり、資源というのは、ハード的なものなんですね。商店だったりハード施設とか目に見えるものです。地域の価値と言ったときは、つまりブランディングだとか人間の意識に訴える力になります。そこを使い分けることはあります。この場合の地域資源というのは、素材の方を優先している言っているのかなと理解しています。

山川(庸)委員 私の妻は、群馬の前橋から来ました。妻の弟夫婦が2～3日前に来たんですけども、上山の食べ物が非常に美味しいと言っていた。前橋の方が美味しいものって言われた時浮かんでこない、上山の方があるという話をしていきました。上山市は、ラフランスもさくらんぼ美味しいんだけど、宣伝が下手。上山も美味しいもの沢山あるんだけど、インパクトが足りないかなと感じます。逆に群馬の人の方が上山の良さを伝えてくれると感じます。

柳井会長 午前中に庁内の方と意見交換をしたんですが、ピンチョスのやり方とワインをくつつける。商品化のPR以外にもなるかと思います。今後、実施計画を考えていくとき、市民と商工を巻き込んでいくとなど、そういう課題があるのかなと思います。

菅野委員 今のこのアンケートですが、『そう思う』と『ややそう思う』で21.7%は高いと考えてよいのでしょうか。専門的なことは分からないので、先生方に伺いたいのですが、『あまりそう思わない』と『そう思わない』で38.9%あるので、この差がすごく大きいように感じます。この結果をみると、この値は高いのでしょうか、低いのでしょうか。

柳井会長 正直申し上げると、低いと思います。下平先生はまた違う意見をお持ちかもしれませんが、私は低いと思います。話を聞くと、アンケートに答えることも一つの市民参加だ、ということで答えるだけで勘弁、という意見

もありますので、正直低いと思います。下平委員いかがですか。

下平委員 アンケートを見て、どちらでもないという項目が少しバイアスがかかってしまっていますが、例えば、掃除とか地域の活動とか、そういう取組に参加する、いろんな活動に参加することも大きなことだと思いますし、それを市民にお示しすると、少しは数値が上がってくるのかなと思います。

柳井会長 今回の総合計画は、人材育成と市民参加が大きな地位を占めてきますので、伸びしろはあると思います。これから計画が出来た後、KPI で管理していきますので、KPI で扱う数値目標の中に例えば、『清掃活動に何回参加しましたか』、『自分たちでアイデアを考えて具体的に活動しましたか』などそういった指標がどんどん入ってくると思います。そこで、もういちどチェックをいれてくと、数値が増加する可能性があると思いますので、我々も期待したいところです。

年代別のアンケート回答結果は分かりましたでしょうか。

事務局 傾向ですけども、比較的若い方、40歳未満の方に参加したいと考えていただいている方が多いようです。

柳井会長 委員の皆様からありますでしょうか。

(富士課長が資料1に基づき説明 土地利用部分)

柳井会長 それでは、本日の報告は以上で終了いたします。ご協力ありがとうございました。それでは、後は事務局の方で進めていただきます。

進 行 柳井会長、議長の任、誠にありがとうございました。

それでは、次第の5、その他に移ります。委員の皆様からなにかございますでしょうか。

事務局から連絡がございます。今後のスケジュールについてお伝えします。スケジュールですが、表紙のその他の部分の記載しておりますが、次回の第4回振興審議会は、10月24日(火)の13時30分から同様の場所で開催しますので、またご参加のほどよろしくお願いいたします。5～8回目と2月15日まで日程を設定しておりますので、よろしくお願いいたします。議事の状況によっては、回数が増える場合もありますので、よろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、第3回上山市振興審議会を閉会いたします。ご審議いただきまして、ありがとうございました。

(閉会 午後2時30分)